

2025 年度 (令和 7 年度)

学校評価自己評価表

校番	福山市立 福山中・高等 学校
最終更新日	2025年(令和7年)4月1日

I 福山市 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 自校

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○生徒が明るく前向きな笑顔で過ごしている様子が見られた。 ○めざす生徒像につながる取組が効果的に実践されていると感じた。 ○HPが新しくなり、整理され閲覧しやすくなった。 ○地域との連携が、地域の方々の信頼につながっていることは大変素晴らしい。 ○中高一貫校の特徴を生かした取組が効果的に行われていると思う。</p>	<p>育成する力 資質・能力</p> <p>探究心・創造力・思考力 コミュニケーション力 協働 チャレンジ精神</p>
<p>教育理念</p> <p>ESD(持続可能な開発のための教育)を通じて、生徒一人一人が持つ潜在的な独創性を引き出し、溢れる知性とチャレンジ精神をエネルギーに、持続可能な社会の創造に向けグローバルに活躍する人間を育成する</p>	<p>めざす生徒像</p> <p>○積極的に地域や社会に働きかけ、課題を発見し、よりよい価値の創造に向け努力する生徒 ○多様性を認め合う寛容さを持ち、互いの思い・考えを大切にしながら協働する生徒 ○心身ともに健康で、困難に負けず粘り強く挑戦し続ける生徒</p>
<p>学校教育目標</p> <p>旺盛な探究心、豊かな創造力、柔軟な思考力を育み、課題の解決に向け粘り強く挑戦する生徒の育成</p>	

<p>現 状</p>		<p>テーマ</p> <p>グローバル社会・地域社会で活躍する意欲と態度をもった生徒をどう育成するか</p>
<p>中学校</p> <p>(生徒) ○「通学マナーを守っている」に対する生徒の肯定的評価は99.1%と非常に高いが、列車内及び登下校でのマナーにおいて地域から苦情が寄せられるという事実がある。 ○教科指導、特別活動(学活・生徒会活動・学校行事)、進路指導等、学校の取組に対する生徒、保護者の満足度、帰属意識は高い。「福山中で学んで良かった」(生徒)、「福山中へ子どもを行かせて良かった」(保護者)に対する肯定的評価はそれぞれ93.4%、95.6%である。 ○「生徒会活動(委員会含む)に積極的に参加している」に対する生徒の肯定的評価は68.3%である。 ○「自ら挨拶している」に対する生徒の肯定的評価は85.9%であり、10%程度評価が下がっている。 ○長期欠席者数は、12人である。</p>	<p>高等学校</p> <p>(生徒) ○「国立大学合格延べ数を99人以上とする」に対し94人、「難関国立大学合格延べ数を15人以上とする」に対し難関大・医歯薬獣医合計11名の合格。 ○国立大学を第1志望とする生徒の割合は入学時は85.0%である。 ○「モラルを理解している」との回答92.5%、「場面に応じた適切な行動がとれる」との回答90.5%であった。 ○「本校の学校行事は、生徒の自主的、自治的活動になっている」との回答86.8%、部活動加入率は92%であり、「部活動から充実感や達成感を得ている」との回答67.6%であった。</p>	<p>研究</p> <p>内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実践的授業研究 ・生徒の探究能力・コミュニケーション能力の育成を目的とした実践的授業研究 ・ESDの2観点に基づいた資質・能力を育成するための授業づくり
<p>(授業) ○中学3年生を対象とした全国学力学習状況調査において、昨年度の結果は国語78%、数学84%でいずれも市平均より大きく上回る結果となった。また、学力の伸びを把握する調査の結果より、学力を伸ばした生徒の割合は国語では1年49.1%、2年43.6%、3年49.5%、数学では1年48.1%、2年47.9%、3年で16.2%、英語では3年89.2%であった。探究的な学びを通して、生徒は着実に力をつけてきている。 ○昨年度実施した学校評価アンケートでは、「主体的な学びをすすめるような授業の研究・工夫をしている」と感じる生徒が88.6%、「総合的な学習に主体的に取り組んでいる」生徒が92.3%といずれも高評価であり、生徒の主体性の高まりが見られる。また、「主体的な学びを取り入れた授業改善を行っている」教員は90.9%であり、教員の意識も高い水準である。 ○今後も、校内研修の充実を図るとともに、数学、英語での習熟度別のきめ細かい少人数授業、総合的な学習で取り組んでいる探究学習「My探究」、全教科でのICTを活用した多様な学習、課題の提示の仕方や家庭学習を工夫して行う指導、ESDの視点を加味した授業研究に取組み、生徒の資質・能力を育成する。</p>	<p>(授業) ○生徒アンケート「授業を理解している」の肯定的回答は4年79.8%、5年71.8%、6年88.2%。教職員アンケート「授業計画表を活用した授業を実践した」の肯定的回答は82.3%。 ○「資質・能力の向上に努力している」の伸び率は4年2.5→2.9/2.6→3.0/2.9→3.3、5年3.2→3.9/3.2→3.9/3.4→4.0、6年3.0→3.4/2.9→3.5/3.4→3.7。 ○学校評価アンケートのほとんどの項目は肯定的評価が70%以上であり、主体的に授業や探究活動に取組む姿勢がみられる。一方、残り30%の生徒は、授業の理解度が弱く、様々な場面において自己評価も低くなっており、この層の達成感を高める工夫が必要である。 ○継続して、ホールスクールで資質・能力を高める授業の工夫に取り組む。</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>(1) 「主体的な学び」の過程が実現できている授業 ① 学ぶことに「興味や関心」を持っている。 ② 自己の「キャリア形成の方向性」と関連付けている。 ③ 「見通し」を持って「粘り強く」取り組んでいる。 ④ 自己の学習活動を「振り返って」次に「つなげて」いる。</p> <p>(2) 「対話的な学び」の過程が実現できている授業 ① 「生徒同士の協働」を通じ、自己の考えを広げ、深めている。 ② 「教職員や地域の人との対話」を通じ、自己の考えを広げ深めている。 ③ 「先哲の考え方を手掛かりに考えること」等を通じ、自己の考えを広げ深めている。</p> <p>(3) 「深い学び」の過程が実現できている授業 ① 知識を相互に「関連付け」てより深く理解している。 ② 情報を精査して「考えを形成」している。 ③ 問題を見いだして「解決策」を考えている。 ④ 思いや考えを基に「創造」している。</p>

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】		継続	基礎的・基本的な知識、技能を備えた生徒	・生徒に課題設定をさせたり、自主学習を充実させたりする。	・「自分なりに工夫をして課題や学習に取り組んでいる」と回答する生徒を85%以上とする。	□生徒会と連携し、現状把握のアンケートを実施した。「自分なりに工夫をして課題や学習に取り組んでいる」と回答する生徒が87.6%だった。	4	4	・生徒会が行ったアンケートをもとに、生徒会と連携し、肯定的評価を行う生徒が維持できるように取り組んでいきたい。	◎最終のアンケートでは「自分なりに工夫をして課題や学習に取り組んでいる」と回答する生徒が83.0%と若干目標値を下回った。	4	3	4	それぞれ行っている工夫に対して、肯定的評価をもっと与えられるような取組を考えていきたい。
			継続	知識、技能を活用して思考、判断、表現することができる生徒	・知識、技能を活用して、思考・判断・表現させる内容の授業を行う。	・「授業で考えることがおもしろいと感じている」と回答する生徒を85%以上とする。 ・定期検査において活用問題の得点率を60%以上とする。	□「授業で考えることがおもしろいと感じている」と回答する生徒が87.9%だった。 □1学期の定期検査における活用問題の平均得点率は60.1%であった。	4	4	・目標数値をすでに上回っているものの、この値を年度末まで維持できるように、授業の工夫を行っていき、授業と評価の一体化に努めていきたい。	◎「授業で考えることがおもしろいと感じている」と回答する生徒が84.2%だった。 2学期期末検査までの年間平均の活用問題の平均得点率は55.3%であった。	3	4	4	知識を活用する場面を積極的に取り入れ、生徒の思考力を高めるとともに、生徒に実感を与える取組をを考えていきたい。
			継続	高い志を持って、主体的な学びに向かうことができる生徒	・学期始めに「キャリア・ログ」を書くことで、自己をみつめ、将来になりたい自分(職業など)の姿を考える時間をとる。	・自分は「進路について考え、目標を見つけてようとしている」と答える生徒を85%以上とする。	□「進路について考え、目標を見つけてようとしている」と答えた生徒は86.7%であり、目標値を上回った。	3	3	・引き続き、学期始めと学期終わりにキャリア・ログを書くことで、進路意識を高めていきたい。	◎肯定的に回答した生徒は81.0%であり、中間評価の数値より減少し、目標値を下回った。	3	3	3	キャリア・ログだけでなく取組が必要だと感じた。「先輩に学ぶ会」などの中高一貫の強みを生かした取組をを広げていきたい。
中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】			継続	・社会人基礎力(礼儀・マナー、自律)を身に付けた生徒 ・充実した学校生活を送るための自己肯定感の高い生徒	・登下校マナーや学校や社会のルールについての指導を充実させることで生徒の自律意識を高める。	・礼儀、マナー、挨拶に関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合90%を以上とする。	□生徒の肯定的回答の割合は97.5%となっており、目標値を上回っている。	4	4	・登下校中のマナーについては、全校集会やクラスで定期的に注意喚起を行っている。引き続き定期的に声掛けを行っていききたい。	◎肯定的に回答した生徒は95.9%となっており、目標値を上回ることができた。	4	4	4	今後も全校集会や生徒会活動を通して、挨拶を行いやすい環境を整えていくとともに、声掛けを行っていく。
					・SNSの使い方など、ネットリテラシーを育む学習会を開催し、全校生徒に取組を行う。	・SNSやインターネットを適切に使用しているかに関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合を90%以上とする。	□「家庭で通信機器(スマートフォン)等を使用するルールを決めていますか。」というアンケートで「決めている」と回答した89.8%となっており、ほぼ目標値であった。	3	3	・1学期にネットリテラシーに関する学習会を行った。家庭で通信機器のルールを決めていない生徒もいるので、定期的に指導も行っていきたい。	◎肯定的に回答した生徒は76.5%と中間評価の数値より減少し、目標値を下回った。	3	3	3	警察など外部の機関とも連携を図り、ネットリテラシーを育む活動を引き続き行っていきたい。
					・不登校(長期)生徒数ゼロに向けて取組を充実させる。	・長欠ゼロ実現の為に担当者、担任と週に1回以上は連携を取り、年間30日以上欠席者数を8人以上とし、新規長期欠席者を0人をめざす。(昨年度12人)	□9月末現在で長欠者は4人、不登校は3人である。昨年からの引き続き不登校になっている生徒もいるが、かがやきやメタバースを利用し、以前よりは改善がみられる。	3	3	引き続き、他の関係機関等とも連携をとりながら生徒一人一人にあった取組を行っていききたい。	◎1月末時点で長欠者は6人、不登校は4人である。新規の不登校者数は2人である。	3	3	3	スクールカウンセラーや関係機関とも連携を行っていく中で、改善が見られた生徒もいた。引き続き支援を行っていききたい。

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒(教科「道徳」を通じて)	・生徒の実態に合わせた教材選びを行い、発問を工夫することにより、生徒が「自分の問題として」「考え、議論する」道徳の授業を行う。	・「道徳の授業を通して、『よりよく生きること』について考えることができた」と回答する生徒の割合を90%以上とする。	□「道徳の授業を通して『よりよく生きること』について感じる事ができた」と回答した生徒は、95.1%だった。	4	4	生徒の実態を学年の教員で共有し、適切な教材選びを行う。また、教材の提示やワークシートを工夫することで「考え、議論する」道徳授業の実践を図る。	◎肯定的に回答した生徒は95.0%であり、目標値を上回ることができた。 □授業実践	4	4	4	引き続き、生徒実態に合わせた教材選びを行う。また、生徒の興味を引き付ける教材の提示や発問の工夫により、「考え、議論する」道徳授業の実践を図る。
				主体的な関わり合いを持ちながら共に伸びる生徒	・学級活動、学校行事や生徒会行事を通して人間関係の構築を促す。	・「あなたは、学び合いやグループ活動において、自分の考えが認められている」と回答する生徒の割合を95%以上とする。	□「学びあいやグループ学習において、自分の考えが認められている」と回答した生徒は96.6%だった。	3	3	行事や授業などの中で生徒同士が関わり合う活動を積極的にを行い、生徒が安心して自分の意見が言える人間関係の構築を目指す。	◎肯定的に回答した生徒は97.0%であり、目標値を上回ることができた。	4	4	4	生徒が安心して自分の意見が言える人間関係を基盤として、生徒同士が積極的に関わり合う活動を充実させていく。その中で、生徒が自分たちの成長を実感できるようにしたい。
国際課題、地域課題について探究し、持続可能な社会の創り手となる生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】			継続	地域を知り、地域課題解決に取組む意欲と態度を備えた生徒	・総合的な学習の時間におけるMy探究や教科の授業等で、社会とつながる取組を行う(全学年)。	・「福山中・高等学校ESD3プロジェクト」ルーブリックの①地域課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	□ルーブリックは、春の実施では①地域課題解決力の平均ポイントは5ポイント中、2.41ポイントだった(昨年度2.54ポイント) □2年生では10月実施の職場体験学習に向けて準備を進めている。	3	3	10月に2学年で実施する職場体験学習や、My探究、各教科等で、引き続き校外とつながりを持つように取り組む。	◎地域課題解決力の平均ポイントは5ポイント中2.81ポイントで、初回と比較して上昇した生徒は40.3%だった。 □My探究での取組(1年生:街頭インタビュー・アンケート調査) □家庭科での保育園交流	3	3	3	My探究以外に、地域と社会とつながる機会が少ないため、生徒が「地域の課題解決に参画できた」と実感できる取組を各教科や学年で考えていく必要がある。
				国際交流や国際課題に取組む意欲と態度を備えた生徒	・総合的な学習の時間や教科の授業等で、浦項大東中学校等との国際交流の内容を共有し、日本と外国の良さや課題について考える機会を持つ(全学年)。	・「福山中・高等学校ESD3プロジェクト」ルーブリック②国際課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	□ルーブリックは、春の実施では②国際課題解決力の平均ポイントは5ポイント中、2.32ポイントだった(昨年度2.39ポイント) □9月に23名の生徒が浦項大東中学校へ訪問し交流を行った。全校で国際交流をする機会を持つことはできなかった。	3	3	海外の学校との交流を全校で持つ機会はなかなか無いが、各教科の中で、国際課題について考える機会を取り入れ、世界への興味関心を広げさせる。	◎国際課題解決力の平均ポイントは5ポイント中、2.66ポイントで、初回と比較して上昇した生徒は38%だった。	3	3	3	国際交流の経験は限られているため、各教科の中でも国際課題について自ら考え、意見を伝え合う機会を設けていく。
				自尊心を高め、学びを活かしライフプランを設定し、よりよい在り方生き方を考える生徒	・総合的な学習の時間におけるMy探究や教科の授業等で、社会とつながり自分自身について考える取組を行う(全学年)。	・「福山中・高等学校ESD3プロジェクト」ルーブリックの③在り方生き方探究のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	□ルーブリックは、春の実施では③在り方生き方探究の平均ポイントは5ポイント中、2.53ポイントだった(昨年度2.64ポイント) □My探究では、1年生は自分の興味・好きを探究しており、2・3年生は、学校・地域・社会とのつながりを考えて探究している。	3	3	進路講話を開催したり、総合的な学習の時間等で進路学習をしたりすることを通して、自らの将来に向けたより良い在り方生き方について考えさせる。	◎在り方・生き方探究の平均ポイントは5ポイント中、2.93ポイントで、初回と比較して上昇した生徒は21.8%だった。 □2年生:職場体験、3年生:進路説明会、修学旅行企業訪問	3	3	3	My探究を軸に、その他の総合的な学習や各教科の取り組みの中でも、自分の長所や魅力、ライフプランを、生徒自らが考える機会を設けていく。

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価 (10月1日)			最終評価 (2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。 【開かれた学校】		継続	様々な機会と手段を有効活用し、本校の取組を校内外に広く発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と連携する。 ・本校生徒が活躍するオープンスクールを実施する。 ・ホームページ等で、学校生活の様子がわかる情報を保護者、地域に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールへの参加者数を750人以上、受検倍率3.2~3.5倍を目指す。 	□オープンスクールの申し込み数は617名、参加者数は586名と目標値を下回った。(昨年度参加者763名) □事後アンケートの結果は、満足と回答した人は97.8%だった。	3	3	夏季休業日の変更や様々な行事と重なったため、参加者が下回ったと考えられる。来年度の開催時期を検討し、目標達成を目指す。	◎受験倍率は、2.77倍であった。(定員105名、志願者295名、受検者数291名)目標を下回った。	3	2	2	オープンスクールへの参加者数を回復するため、開催時期を8月下旬から8月初旬へ前倒しし、小学生・保護者が参加しやすい時期に設定し直す。あわせて内容を見直し、在校生と触れ合い、日常の学校の様子や魅力が具体的に伝わる機会を充実させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新回数を月平均6回以上とする。 						□HP更新回数、月平均6.9回と目標を上回っている。 □毎月生徒会広報誌を地域に配付することができた。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新数や生徒会広報誌の発行は今後も継続する。 ・普段の生徒の様子や部活動の様子なども発信し、中学校のPRをしていく。 	◎HP更新回数は月平均9.2回と目標を上回ることができた。生徒会広報誌の内容も充実させることが出来た。	4	4	4	授業風景、行事準備の様子や生徒の何気ない活動などを可能な方法で積極的に発信する。特に、児童・保護者の関心を高めるため、学校の雰囲気分かる情報を発信し、楽しさと安心感の両面からオープンスクールへの参加を促す。	

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価
中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】	継続	基礎的、基本的な知識、技能を備えた生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を意識した授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート(生徒)「授業では、これまでに学んだことと新たに学ぶ内容とを関連付けて考えています。(広島県質問紙と同等)」を80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> □学校評価アンケート「授業の内容をおおむね理解している」 4年:108(76.6%)/141 5年:64(84.2%)/76 6年:91.9(82.1%)/112 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 関連付けするための理解を考えると、80%を超えていない学年がある。授業冒頭での振り返りや「なぜ学ぶか」を意識した授業計画をしてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校評価アンケート「授業では、これまでに学んだことと新たに学ぶ内容とを関連付けて考えている。」 4年:150(82%)/183 5年:123(79.9%)/154 6年:126(94%)/134 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学習内容の関連付けは、生徒自身もおおむねできている。STEAM型教育の推進も踏まえ、今後も授業改善の方法を検討していく。
			<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画表などを効果的に活用し自ら進んで勉強に取り組む生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート(生徒)「ふだんから計画を立てて勉強に取り組みます。(広島県質問紙と同等)」を50%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> □学校評価アンケート「授業計画表を活用している」 4年:68(48.3%)/141 5年:43(56.6%)/76 6年:68(60.7%)/112 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画表だけでなく、別の媒体(手帳等)の検討を行う。また、4年は高校生活のスタート段階であるため、意義や使い方が十分に理解されていない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校評価アンケート「ふだんから計画を立てて勉強に取り組んでいます。」 4年:77(42%)/183 5年:86(55.8%)/154 6年:(85.0%)/134 	3	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 計画立てた学習に取り組んでいる状況から、授業計画表(授業計画)の活用方法・記載内容について検討(学習のすすめ方など)が必要と考えられる。令和8年度に向けて検討していく。
	継続	知識、技能を活用して思考、判断、表現することができる生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・「3つの学び」(主体的・対話的で深い学び)を意識した授業の工夫を行うことにより、生徒の6つの資質・能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「3つの学び」を意識した授業を行い、ルーブリックの資質・能力の内、「創造力」「思考力」「コミュニケーション力」の伸長率を20%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> □第1回の結果は以下の通り。 4年:創2.5思2.4コ3.0 5年:創3.2思3.3コ3.5 6年:創3.5思3.6コ3.7 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリックの平均値は第2回との比較を待つ(12月)。2学期は修学旅行や探究の成果発表の機会があり、さらなる伸長が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎全資質・能力の上昇平均率は、4年48%、5年20%、6年調査なしで平均34%。創・思・コの上昇平均率は、第2回(4年53%、5年17%)、思(4年50%、5年20%)、コ(4年45%、5年22%)で目標20%をほぼ達成。(第2回) 4年:創3.2思3.2コ3.5 5年:創3.2思3.4コ3.7 6年:調査なし 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 左の数字は第2回(2学期)までの結果であり、第3回(2月)は更なる向上が見込まれる。5年創造力の上昇率が17%とやや低いので、昨年度の資質・能力向上研修の知見を活用して取り組みたい。
	継続	高い志を持って主体的に学びに向かい、時代の変化に対応できる生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRや学年集会、進路講演会等を通して、進路実現の意識を高める。 ・国公立大学受験に対応した進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査で国公立大学を第1志望とする生徒の割合を80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> □高1生80.0%、高2生85.0%、高3生74.0%、全体では79.6%となった。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 低学年には国公立大進学を意識づけるために個人面談や学年集会を通して指導する。3年には面談で国公立大受験の可能性を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> □進路LHR・探究で国公立大進学への意識付けをした。◎高1生78.4%、高2生78.2%、高3生の国公立大出願者の割合62.7%(2/5現在) 	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 共通テスト対策の学習量増加の現状をふまえ、全教科のバランスが取れた学力定着を目指す。一方で科目数が絞られる地方公立大への志望を考えさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査で難関国立大学を第1志望とする生徒の割合を10%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> □医歯薬希望を含め、高3生35名(8月現在)で18.1%が志望している。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 低学年時に難関大受験支援プログラムで教科学力向上を目指し、難関大受験を意識した学習計画を立てて取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> □難関大希望者対象模試を2回実施。◎医歯薬希望を含め、高1生20名(7.8%)、高2生33名(17.6%)高3生難関大出願者15名(7.8%)(2/5現在) 	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 模試結果を元に現状把握をさせ、長期休暇等で難関大受験に特化した学習計画を進めさせる。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストを受験する生徒の割合を95%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> □共通テスト出願者は189名/193名で、97.9%となった。 	5	5	<ul style="list-style-type: none"> 達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎共通テスト受験者は187名/193名で、96.8%となり達成。 	4	5	5	<ul style="list-style-type: none"> 不受験者2名はすでに進路決定済。共通テスト受験指導は例年通りに継続する。 			

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】		継続	高い志を持って主体的に学びに向かい、時代の変化に対応できる生徒	・細やかな教科指導と個人面談を通して、共通テストに出題される6教科8科目の学習を継続させる。	・国公立大学合格を97名以上とする。(延べ数、過年度生含む)	□6年生国公立大希望者143名 国公立大学総合型及び学校推薦入試出願予定者48名(9月現在)	5	3	個別の面談で生徒の希望を把握し総合型・学校推薦・一般入試において適切な受験先の指導を行う。	□共通テスト後の進路説明会を経て三者面談を実施。◎国公立大出願者121名(前中後期出願数の217名) 国公立大学総合型及び学校推薦入試出願者52名中12名合格(2/5現在)	5	3	3	総合型・学校推薦(大学・短大・専門学校)の出願者は119名で在籍者の半数を超えており、昨年度より11名増加。教員の個別指導にも限界があり、複数体制での指導を考える必要がある。
		・難関国公立大学志望の生徒に対する学力向上支援を低学年から計画し実践していく。			・難関大学合格を10名以上、地元国公立大学合格を40名以上とする。(延べ数、過年度生含む)	□医歯薬を含め高3生8月模試での難関大C判定以上11名(D判定13名)、広島大志望16名うちC判定以上3名、岡山大志望33名うちC判定以上10名	4	3	当該生徒の教科学力と希望学部・学科を把握し、学年・進路・教科で連携して指導する。データ分析をもとに全国的な受験動向を把握する。	□2学期及び共通テスト後の進路説明会を経て面談を実施。◎難関国立大出願者(医歯薬希望含む)15名 広島大・岡山大出願者45名 県内公立大出願者37名(2/5現在)	5	3	3	難関大志向の生徒のうち、教科学力のバランスが良くない状況が昨年度より増加。一方、地元国公立大特に県内への進学希望も増加。入学者層の変化に合わせた進路指導を考える。	
	中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	・生徒の自己分析を促したり、ネットリテラシーを育んだりするような講演会を依頼し、全校生徒に取組を行う。	・自己肯定感や、ネットリテラシーに関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合を80%以上とする。	□生徒の肯定的回答の割合は92%であった。	4	4	あらゆる場面でネットリテラシーに関する情報提供および指導を継続する。	◎SNS・インターネットに関するアンケート項目の肯定的回答は、全学年で平均98.8%であった。	4	4	4	引き続き注意喚起を怠らず行っていく。
		社会人基礎力(礼儀・マナー、自律)を身に付けた生徒		・学期ごとに「生徒指導重点目標」を設定し、それぞれにおいて指導項目を焦点化することで教職員による組織的な指導を行う。風紀委員会活動等での啓発活動を行う。	・礼儀、マナー、挨拶に関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合80%を以上とする。	□社会のルールなど、適切な行動や態度がとれているかの質問に対して肯定的回答の割合が91%であった。	4	4	今年度「挨拶励行」「時間厳守」「清掃徹底」の市立三訓を掲げた。全校集会や学年集会をとおして継続的に指導を行う。	◎保護者の「自分の子どもは進んで挨拶をしている」アンケート項目の肯定的回答割合が86%。	4	4	4	風紀委員による挨拶運動やノーチャイムデーで自律をめざす。あらゆる機会をとおして挨拶励行を促す。	
		継続	部活動や学校行事、生徒会行事に主体的に取組む生徒	・一樹祭等を通じて生徒の主体的、自治的活動を促進する。	・「本校の学校行事は、生徒の自主的、自治的活動になっている」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上とする。	□肯定的回答が88%、昨年度比較2%上昇と微増した。	4	4	継続して、生徒主体となるよう企画・運営を行う。	◎学校における自主的・自治的活動のアンケート項目の肯定的な回答が93.3%。	4	4	4	肯定的な回答が上昇していることから、継続・維持していく。	
				・各部活動が自らの活動を発表したり、学校行事等で活躍できたりする場を設ける。	・部活動加入率を80%以上とする。 ・「部活動から充実感や達成感を得ている」と回答する生徒を部活動加入者の80%以上とする。	□部活動加入率は86%であった。部活動から充実感や達成感を得ているかの回答は76.4%で、昨年度比較4%上昇と微増した。	3	3	継続して、各部活動が自らの発表したり、学校行事等で活躍できる場を設定する。	◎部活動から達成感や充実感を得ているかのアンケート項目の肯定的な回答が90%。	4	4	4	さらに学校行事や部活動において、活動が認められる場を設定していく。	
				心身の発達に応じて体育祭、スポーツ大会等を計画的に実施する。	・「あなたは体育祭、スポーツ大会などに積極的に参加している」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上とする。	□肯定的回答が85%であった。	4	4	執行部、委員会を中心に生徒が主体となる企画・運営を行う。	◎肯定的回答が92%であった。	4	4	4	体育祭を生徒主体で運営させていくなど工夫していく	
		継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	・すべての委員会活動を活性化させ、各種委員会における自主的、自治的活動を推進する。	・「あなたは委員会活動などに積極的に参加している」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上とする。	□肯定的な回答が75%であった。昨年度と比較しても微増でほぼ横ばい。	3	3	各種委員会を実施し、生徒の自主的・自発的な活動を促していく。	◎委員会活動に関わるアンケート項目の肯定的な回答は76%であった。	3	3	3	委員会活動全般について見直しを行い、今後の活動について感がえさせていく。	

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	国際課題、地域課題について探究し、よりよい価値の創造に向け努力し、多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	地元企業と連携した探究学習を通して、地域を知り、地域課題解決に取り組む意欲と態度を備えた生徒	・グローバル人材育成事業により、高校生が担当する企業に対し、課題解決に向けた成果物を作成する。	・「地域の企業や課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して対象の4年生の学校評価アンケートで肯定率を65%以上とする。	□「地域探究」は、全学年を通して71.3%、企業研究に取り組んでいる4年生で肯定率は71%であった。	4	4	引き続きコーディネーターや企業と連携を図り、生徒が主体的に課題解決に取り組めるようにする。	□企業発表やイベント(2/1)は取り組み中。◎全体の肯定的評価は71.1%で4年生は76%だった。	4	5	4	次年度も継続してグローバル人材育成授業を通して、企業や団体の課題解決に向けて探究を深化させるような内容・推進体制を進めていく。
				ユネスコスクールとして、国際交流や国際課題に挑戦する意欲と態度を備えた生徒	・海外研修や修学旅行を通して国際課題解決に向けたレポートの作成・発表を行い、「夢プロ」では国際課題に関するプログラムに積極的に参加する。	・「国際課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して5年生を対象として学校評価アンケートで肯定率を60%以上とする。	□肯定率は、全学年を通して70.5%であり修学旅行や国際課題に取り組んでいる5年生の肯定率は71%となっている。	4	4	学年での「夢プロ」の充実や、修学旅行を通して異文化を体験する。また、校内で国際交流を共有できる場を設け、肯定率の向上につなげていく。	□5年修学旅行が海外研修を行った。また校内での国際交流も活発に行われた。◎全体の肯定的評価は74.8%で5年生は73.4%であった。	4	5	4	国際交流を引き続き多様なプログラムを工夫し生徒の国際感覚を涵養していく。
	国際課題、地域課題について探究し、よりよい価値の創造に向け努力し、多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	旺盛な探究心、課題の解決に向け粘り強く挑戦する学びを活かしたライフプランを設定し、よりよい在り方生き方を考える生徒	・「総合的な探究の時間」で行われる「グローバル人材育成事業」や「夢プロ」、その他の様々な教科から現代社会の課題を学び、その上で自身の在り方や生き方を考察させる。	・「社会や身の回りの様々な今日的な諸課題に関して以前より興味関心を持つようになった」という項目で学校評価アンケート全学年を対象として肯定率を80%以上とする。	□全学年を通しての肯定率は78.1%であった。各学年別では4年生が73.8%、5年生が80.2%、6年生が80.3%となっている。	4	3	今後の4年生校内発表や課題への取り組み、5年生修学旅行後の振り返りや夢プロなど発表や体験を通してさらに意欲を引き出す。	□中間評価と比較して全体的に課題意識は上昇している。◎興味・関心を持てるようになった割合は、全学年で80.8%であった。学年別では4年生78.1%、5年生78.6%、6年生85.8%であった。	4	5	4	行事や学習・探究を通して自己をみつめ、他者との協働とする本質を軸に指導を継続し、生徒の進路実現につなげていきたい。
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。【開かれた学校】		継続	様々な機会と手段を有効活用し、本校の取組を校内外に広く発信する。	・中学校への学校訪問や訪問受入等による連携を積極的に行い、意欲ある本校受検者の定着と増加につなげる。	・オープンスクールへの参加者250人以上、最終の本校受検倍率1.1倍以上とする。	□オープンスクールの参加は287名と目標値を上回り回復した。昨年度比19%増加した。(保護者を含めると475名、31%増加)	4	4	・本校の魅力発信に一定の成果があったが、昨年度は午前のみで参加者が減少したため、今年度は午前午後の2部構成に戻した。来年度以降も2部構成として、内容の改善を各方面と今年度中から連携して取り組んでいく。	◎本校受検倍率は、1.36倍である。(定員88名、出願120名)、(受検()名、合格88名)	4	4	4	夏のオープンスクールの参加は287人と昨年度比19%増加回復した。志願者は昨年度より14名増加(昨年1.15倍:定員92名、受験106名)した。入試制度変更4年目、私学の授業料無償化で、志願倍率が依然低迷している状況のなかで、福山地区では倍率では上位にある。数値・情勢分析を経て、来年度以降の取り組みにつなげていきたい。
				・HPやブログを頻りに更新し、持続的に魅力ある情報を保護者、地域に発信する。	・ホームページの月別更新回数を8回以上とする。	□昨年よりHPをリニューアルしている。更新回数は月平均18.8回と目標を上回っている。	4	4	・予算獲得をしてHPの外部委託の可能性を探っていく。本校教育活動の情報と生徒の活躍をリアルタイムで内外に配信する。	◎月平均HP更新回数は17.2回と目標値を上回った。ブログを中心にこまめに更新でき内容の充実もできた。来年度も更新回数、内容ともさらに充実するよう努める。	4	4	4	国際交流や部活動についての情報発信をさらに工夫していく。予選獲得を目指す、外部発信によるHPリニューアルを実現したい。	

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中・高等 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	働き方改革に取組み、教職員の健康増進と教育の質の向上を図り、教育公務員としての自覚と使命感を持つ。 【信頼される学校】		継続	教職員の超過勤務時間削減	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の一斉退校日を徹底するとともに、現行の業務内容について点検、見直しを行い、業務改善を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月の時間外労働80時間を超える職員を減少させ、月45時間以内の人数を増加させる。 	□月1回の一斉退校日を徹底することはできなかった。働き方改革を進め80時間を超える職員は昨年度より中高とも減少した。45時間以内の職員数は昨年度と比較して中高とも大きな変化はなかった。	3	4	分掌や個人で、業務の進捗状況を管理して計画的に業務を推進できる態勢を整備していく。土日の部活動指導は顧問間で調整して負担が偏らないように配慮していく。	◎月45時間以内の延べ人数は20名増加、月80時間以上の延べ人数は15名減少した。□状況に応じてリモートで勤務するなど学校全体で働き方改革の意識が向上している。	4	4	4	現状と課題に対する職員の意見を集約し、スクラップする業務の検討を行うことで、より一層働き方改革を推進する。
			継続	法令遵守の自覚と使命感を持つ教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づき、不祥事防止研修研修を実施するとともに、当事者意識を高め、不祥事の未然防止に取組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週初めの職員朝会で不祥事防止に係る研修を実施する。不祥事防止研修は5回/年以上実施する。 	□毎週不祥事防止に係る研修を職員朝会で実施し意識を高めた。全体研修は2回実施し、不祥事のない職場環境を維持している。	3	3	不祥事を他人事と捉えずいつでもどこでも起こり得ること認識し、事例は全体共有するとともに、お互いに声を掛け合い、風通しのよい職場づくりを目指す。	□不祥事防止のための研修を継続的に実施し、風通しのよい職場づくりを進めたことで不祥事を未然に防ぐ職場環境を築いている。	4	4	4	職員同士が気軽に相談したり、建設的に思いを言い合うことができる環境（ミーティングスペース等）を整備することで、風通しのよい職場づくりを目指す。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難しく、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。